

探究的な見方・考え方を働かせながら、主体的に地域の自然や文化、人と関わる子供の育成

1 はじめに

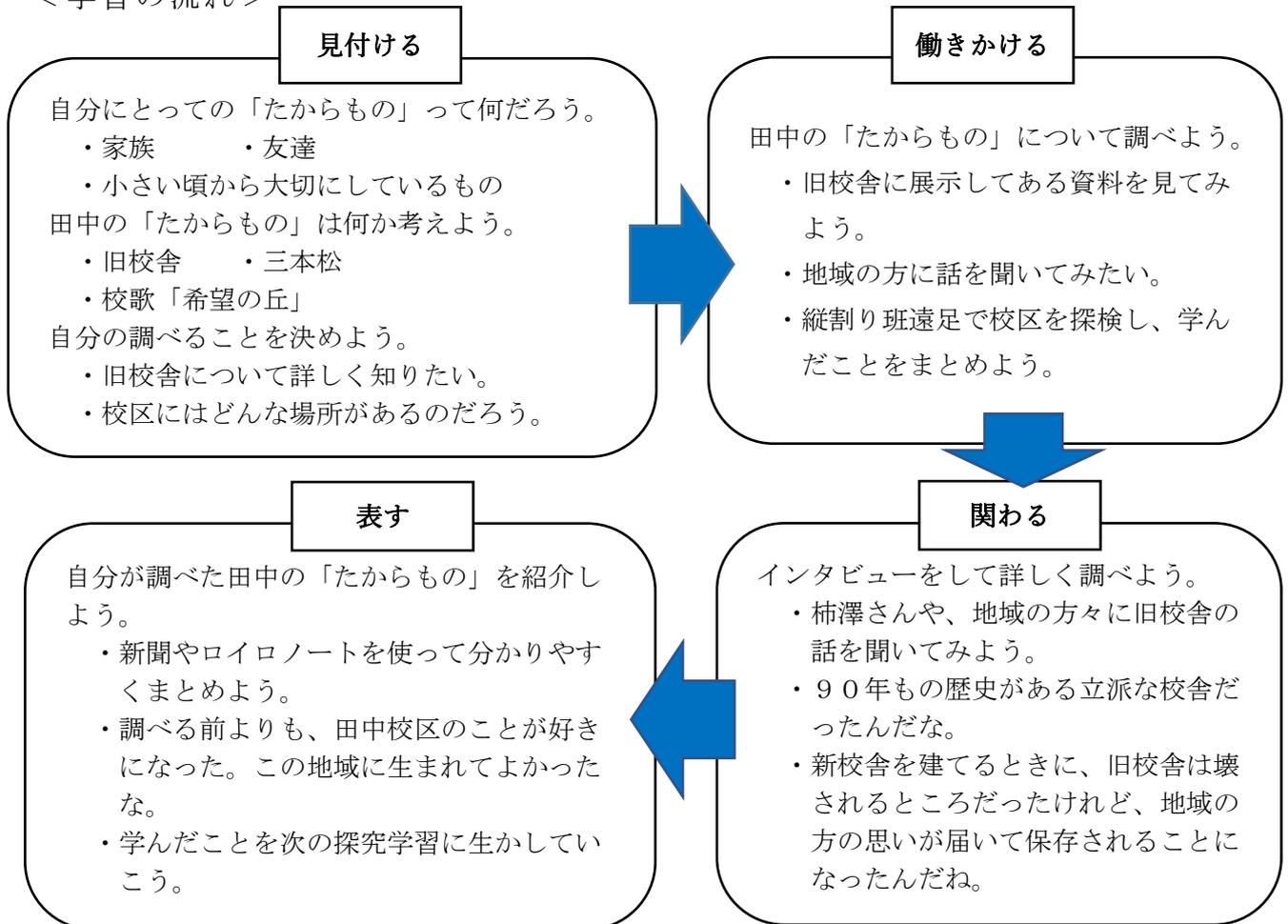
田中小学校の現校舎が完成したのは、平成26年である。その際、地域の強い願い等から木造の旧校舎が残ることになった。そして平成28年、木造校舎が国の登録有形文化財となったことにより、現在も子供たちや地域の方々から愛され、大切にされている。このように、木造の旧校舎が現存するという特色をもつ田中小学校の子供たちにとって、地域の歴史や文化を学ぶ学習は毎日の学校生活と大変関わりが深いことである。

そのような環境を生かし、総合的な学習の時間や縦割り班活動の時間にふるさと学習の充実を図り、探究的な見方・考え方を働かせながら、主体的に地域の自然や文化、人と関わる子供の育成を図ることをねらい、本実践を行った。

2 活動の実際

(1) 3年生の取組 総合的な学習の時間「田中のたからを見つけよう」

<学習の流れ>



3年生は、**関わる**で田中校区に住む柿澤稔さんをお迎えし、田中小学校の歴史について学ぶ学習を行った。柿澤さんからは、田中小学校が1873（明治6）年に西光寺を仮の校舎として始まったこと、88年前に旧校舎が建てられたときは、周囲は田畑ばかりだったことなど、写真を見せていただきながらお話をしていただいた。子供たちは、昔の写真を興味深そうに見つめながら真剣に話を聞いた。

＜柿澤さんからお話を聞いた後、子供たちから出た質問＞

- ・ どうして木造校舎を壊さずに残すことになったのか。
- ・ 木造の校舎は、珍しいのか。
- ・ 旧校舎を半分壊したのはなぜか。
- ・ 木造校舎の前の三本松は、どうして有名なのか。
- ・ 学校にポプラの木を植えたのはどうしてか。
- ・ 昔の学校が男女別なのはどうしてか。
- ・ 校舎が火事になったのはどうしてか。
- ・ 天皇陛下へ挨拶しているのはどうしてか。



【木造校舎前の三本松】



【木造の旧校舎】



【柿澤さんとの学習】



＜「田中のたからを見つけよう」の学習を通しての感想より＞

- ・ 旧校舎は昔からあって、みんなから大切にされていることが分かった。
- ・ 田中小学校には、旧校舎や校歌、三本松など、多くの宝があり、田中の人に愛されているんだなと思った。
- ・ 校門から校舎まで続いている砂利道、昔の田中小学校に通っている人たちも歩いている。だから、みんなが歩いているこの砂利道は、田中の宝だと思った。
- ・ 見守り隊は、第2、第4水曜日に来て、町内ごとに一緒に帰ってくださる。私はこれからも、優しい人や元気な人を見て真似したいと思う。
- ・ 今まで、地域の人たちが旧校舎を大切に守ってきたのがよく分かった。これからは、私たちが地域の人と一緒に大切に守っていきたいと思う。

(2) 5年生の取組 総合的な学習の時間

「田中の未来・環境～今、わたしができること～」

本校では、平成19年から「ホタルとふれあう会」の柿澤清喜さんに教わりながら、毎年学校のビオトープにホタルの幼虫を放流している。昨年度、柿澤さんとホタルの学習を行い、冬の間も幼虫のお世話をしてきた6年生が4月に幼虫を放流した。餌となるカワニナを与えながら、大切に育てた幼虫を優しくビオトープに放流する姿が見られた。

5年生の学習は、6年生のホタルの幼虫の放流を見ることからスタートした。そして5月、柿澤さんに来校していただきホタルの学習を行った。この学習では、自然環境を大切にしていこうというみんなの思いで続けてきたことや、ホタルの一生について学んだ。質問をする時間になり、子供たちから次々と手が挙がったことから、地域の方と何年も続けているホタルの学習に対して関心が高いことが伺えた。その後、子供たちは身近な自然環境について調べ、自分ができることを実践しようと取り組んだ。

6月には、4月に学校のビオトープに放流した幼虫が何匹も成虫になり、子供たちは保護者と一緒に学校を訪れ、夏の夜の風物詩ともいえるホタルの美しい姿を楽しんだ。11月の学習発表会では、ホタルの学習で学んだことを台本にして環境保全を呼びかけた。今年度から、ホタルの幼虫の飼育は柿澤さんがしてくださることになったが、来年度以降も、ホタルの学習は継続していく予定である。



【ホタルの幼虫の放流】



【柿澤さんとの学習】



【学校のホタル】

＜ホタルの学習を通しての感想より＞

- ・ホタルの幼虫が住んでいる場所や、1年しか生きられないことを知った。
- ・ホタルが減った原因が分かり、こんなに減っていることに驚いた。
- ・ホタルは自然環境の変化が一番分かる昆虫なのかもしれない。
- ・これまでの5年生の取り組みのおかげで、ホタルが戻ってきているのでは。
- ・ホタルについてもっと調べてみたい。
- ・自分もホタルの卵から成虫まで育ててみたい。
- ・地域の人と一緒に、昔の風景を取り戻すことを頑張りたい。

(3) 6年生の取組 総合的な学習の時間「つなげよう！田中の心」

滑川市は長野県小諸市と姉妹都市として様々な交流を行っており、本校と小諸市立坂の上小学校との交流は、今年で49周年を迎えた。8月には6年生が小諸を訪問し、特産物に触れたり名所を巡ったりしながら、小諸のよさを体感した。

10月に、坂の上小学校の6年生が滑川市を訪問した。本校の子供たちは、田中小学校や滑川市のよさを知ってもらおうと、準備を進めた。そして、田中小学校は、昨年度150周年を迎えた伝統ある学校であること、隣に木造の旧校舎があり、今でも旧校舎を使って様々な学習を行っていることを紹介した。また、滑川市の特色として「新川古代神」の美しい踊りや、海、特産物等を紹介する活動も行い、自分たちの地域のすばらしさを再確認していった。

この交流活動は、たくさんのPTA役員や保護者の方々に支えられて実施することができている。この交流活動を通し、子供たちは小諸交流が3世代にも渡り長い間続いている理由について考えていった。物事が長く続くためには、人の知恵や努力があること、伝統を守っていこうとする方々がいることに気付く学習となった。

< 10月 滑川訪問の活動日程 >

1日目

歓迎式—対面式—旧校舎見学—給食—東福寺野自然公園（パークゴルフ、海に沈む夕日鑑賞）

2日目

朝の会—富山湾クルージング—ほたるいかミュージアム見学—昼食—岩瀬浜（浜遊び）—お別れの会



【8月 小諸訪問】



【10月 滑川訪問】

(4) 縦割り班活動「田中っ子祭り」

本校の特色の一つとして、縦割り班活動がさかんなことが挙げられる。毎日の黙働清掃、休み時間に行うキラキラ班遊び、そして運動会も縦割り

班ごとに色団を組んで活動している。子供たちは、1年生の頃から異学年で活動し、上級生から様々なことを学んでいる。

4月、新年度が始まり縦割り班が結成された。6年生は、縦割り班のメンバーがもっと仲良くなるために何か企画したいと考えた。そこで、射的や輪投げ、折り紙等、様々なコーナーを設置し、班のみんなで遊びを楽しむ「田中っ子祭り」を開催することを決めた。そして、この祭りではもう一つ、各コーナーを旧校舎の教室にも設置して、旧校舎のことを学びながら遊ぼうというねらいも立てた。当日は、旧校舎の内部の迫力ある中央階段や、シャンデリアのある部屋等、10年前まで授業が行われていた校舎の魅力的なデザインを発見し、木のぬくもりを感じながら祭りを楽しむことができた。



【旧校舎で行われた田中っ子祭り】

今年度の縦割り班活動は、6年生が企画した「田中っ子祭り」の実施となったが、昨年度は縦割り班で校区の名所を巡るスタンプラリーを行っている。その年ごとに、6年生を中心として愛校心を育てたり、ふるさとを思う気持ちを大切にしたりした創意ある縦割り班活動を続けていきたい。

3 まとめ

地域人材や小諸市の方々等、子供たちが様々な人と関わりをもつことにより、学習に対して意欲的になり、学習への理解や深まりにつながった。さらに、ふるさとについての学びから、地域の自然や文化、それを支える人と主体的に関わっていく態度を育てたり、自分のよりよい生き方を考えたりしていくことができるようにしていきたい。そのために、木造の旧校舎、小諸交流、ホテルの学習、縦割り班活動等、学校の特色を生かしながら、教員がねらいをもって単元構想を行っていくことが大切である。

今後も、総合的な学習の時間や縦割り班活動の時間にふるさと学習の充実を図り、探究的な見方・考え方を働かせながら、主体的に地域の自然や文化、人と関わる子供の育成に努めていきたい。